

第 45 回神奈川県立座間谷戸山公園 現場研修会報告

—テーマ：樹林環境(雑木林)の順応的管理—

1月17日(土)、今回の現場研修会は、先月に引き続き樹林環境(雑木林)の順応的管理というテーマで、園内であまり手を入れていない樹林地の間伐作業を中心に行いました。



まずは研修内容の説明です。ただ作業をやるだけでは意味がないので、何故その作業をするのかしっかりと理解してやることが重要です。



午前中は先月に引き続き間伐作業です。これは、樹冠で葉を広げて影をつくる木を切り、林床に光を届かせることによって、萌芽や下草の生育を促すためです。そうすることで雑木林が更新していくんですね。



前回からはある程度大きな木も伐採しています。
これは樹齢 30 年余りのシラカシです。



伐採した木をベンチにして休憩中。
こういった時間も講師から色々な話が聞けたり、
質問したりできるいい時間になっています。



これは、雑木林にあるイヌシデの冬芽。
この状態で冬を耐えしのぎ、
暖かい春を待っているんですね。



昼食をはさみ、午後は恒例となった環境に関する記事の発表からスタートです。環境についても色々な話題がありますから、それぞれの発表内容は様々でとても面白いです。



作業は場所を変えての間伐です。同じ園内でもここはもともと植林地のため、スギやヒノキがたくさん植わっている場所です。



樹冠を見ても、かなり覆われていますね。これが夏になれば、もっと暗くなってしまおうでしょう。これではなかなか雑木林は更新していきません。



この地区では、講師が立てた伐採計画を受講生に渡し、受講生が委託された側となって間伐を進めるという形で作業を行いました。



場所を3つに分けし、3人1組で1つの地区を担当しました。



3人で樹種と位置を確認し、若い木などから伐採していきました。どのように進めるのが効率よく無駄がないか、参加者の皆さんもよく考えながら作業を行っていました。



林床にはマンリョウが小さく実をつけていましたが、
マンリョウは直射日光を嫌い、日陰でやや湿り気
のあるところを好むので、まだ植物にとっては暗い
林床だということが分かりますね。

伐採計画に沿った間伐はまだ終わっていませんが、終わって林床にもっと光が入るようになれば、
もっと多様な植物が現れ、雑木林の更新も進んでいくことでしょう。

次回の現場研修会も引き続き間伐作業を行っていきますので、興味のある方、まだ参加されたこ
とのない方は是非ご参加下さい！